

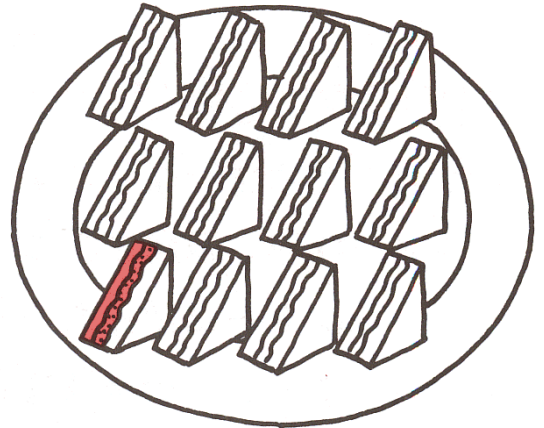
### 2.3.5 数学ゲーム

教科書に単純な3目並べがあったのには驚いた。今の生徒たちはやったことがあるのかなあ～。数多くあるゲームの中から単純で取り組みやすいものを取り上げてみました。

#### 2.3.5.1 激カラサンドイッチ取りゲーム

問 2人で先手、後手を決めて、12切れのサンドイッチを交互に1回に1切れか2切れ取って食べます。ただし12切れの中の1切れは激カラサンドイッチで、それを食べなくてはならなくなったら負けです。

右に載せたサンドイッチを何枚か紙で用意します。最初は問題の意味をつかむために、先生と代表生徒という形で紹介するといいいと思います。問題の意味をつかんだら、2人組を作って勝負開始です。勝ち上がった生徒と先生が最後の勝負をするといいいかもかもしれません。でもこのゲームは先手必勝です。



#### 2.3.5.2 激カラサンドイッチ取りゲーム先手必勝法

- (1) 先手は、最初に(2個とって)10個残るようにする。
- (2) 次に、先手の順番のときは、自分が取った後に7個残るようにする。
- (3) その次の先手の順番のときは、取った後に4個残るようにする。
- (4) その次の先手の順番のときは(最後の順番のときに)、激カラサンドイッチが1個残るようにとる。

先手必勝と書きましたがやっている生徒はそんなことはわからずに一生懸命取り組むと思います。短時間でこのゲームは先手が絶対勝つ!なんてことを発見できればそれはベタほめしてあげてください。数学的な考え方を身につけるのにはうってつけの教材です。激カラサンドイッチのゲームの必勝法は数学教師の方なら簡単に必勝法を考えることができるでしょう。相手に最後激カラサンドイッチを残すためにはその前に2個または3個のサンドイッチを残しておけばいい、そのためには相手番のときに4個のサンドイッチを残せばいい、だから...という感じで勝つ方法を考えることができます。わからない生徒が不思議がって何とか教師に勝利したいという気持ちは教師の側を元気にさせてくれます。

(参考文献:「秋山 仁の算数ざらい大集合」1994年7月 日本放送出版協会、画像はここから引用しました。)